



動詞接頭辞

動詞の前に接続して、動詞に意味を加えたり、意味を変化させたりする要素があります。これを動詞接頭辞と呼びます。接頭辞はどの動詞にも自由に接続するものではなく、特定の動詞と結びついてひとつの語を形成し、固有の意味を表わします。以下では、便宜上、接頭辞を太字で示します。

移動の方向を表わす

megy	行く
felmegy	登る
lemegey	降りる
bemegy	入る
kimegy	出る
átmegey	渡る、横切る
visszamegy	戻る
hazamegy	家へ帰る
elmegey	出かける

Felszáll a villamosra.	路面電車に乗る。
Leszáll a villamosról.	路面電車を降りる。
Beszáll a kocsiba.	車に乗る。
Kiszáll a kocsiból.	車を降りる。
Atszáll a villamosra.	路面電車に乗りかえる。

上の文の名詞についている接尾辞にも注意しましょう。

fel は -ra, -ről 「～の(上)へ」に,
le は -ról, -ről 「～の(上)から」に,
be は -ba, -be 「～の(中)へ」に,
ki は -ból, -ből 「～の(中)から」に対応しています。

動作の完了を表わす

接頭辞の **meg-** あるいは **el-** がつくと、「～してしまう」「～してみる」といった完了の意味を表わします。具体的な1回の動作を表わすので、定冠詞のついた目的語とともに用いられることが多いです。

Tanulok. 私は勉強しています。

Ma **megtanulom** az új szavakat.

今日私は新しい単語を(勉強して)おぼえています。

Tévét nézek. 私はテレビを見ています。

Megnézem ezt a filmet. 私はこの映画を見ます。

Levelet olvasok. 私は手紙を読んでいます。

Eolvásom a levelet. 私は手紙を読んでいます。

状態動詞を動作動詞にかえる

接頭辞の **meg-** がつくと、「～している」という状態動詞を「～する」という動作動詞にかえます。

Áll a vonat. 列車が止まっている。

Megáll a vonat. 列車が止まる。

接頭辞と語順

接頭辞は次のように、動詞と分離して、前方や後方へ移動することができます。文中にフォーカス(否定句、疑問詞句、強調される要素)がある場合には、その直後に動詞がくるという語順の規則があります。この規則にしたがい、フォーカスがある場合には、接頭辞はフォーカスに追い出されるようにして動詞の後方へ移動します。下の例文の太字部分がフォーカスです。フォーカスの部分には、強いストレスがおかれます。フォーカスがない文を中立文と呼ぶことにします。

Éva visszajön. エーヴァは戻ってきます。(中立文)

Ki jön vissza? 誰が戻ってきますか?

—Éva jön vissza. エーヴァが戻ってきます。

Mikor jön vissza? いつ戻ってきますか?

—Holnap jön vissza. 明日戻ってきます。

Éva nem jön vissza. エーヴァは戻ってきません。

Nem Éva jön vissza. 戻ってくるのはエーヴァではありません。

接頭辞がついた動詞の不定形が、kell, lehet などの動詞とともに用いられるときは、接頭辞と不定形が分離して、<接頭辞 + **kell, lehet** などの動詞 + 不定形> が中立文の語順になります。

Vissza kell menni. 戻らなければならぬ。

Itt át lehet szállni a metróra.

ここで地下鉄に乗りかえることができます。

フォーカス(太字部分)がある場合には、フォーカスの直後に動詞がきますので、接頭辞はまたもや追い出されるように移動し、不定形の前の元の位置にもどります。

Nem **kell** visszamenni. 戻らなくともよい。

Hova **kell** visszamenni? どこへ戻らなくてはなりませんか?

Tokióba **kell** visszamenni. 東京へもどらなくてはならない。

接頭辞と疑問文

接頭辞のついた動詞の疑問文に肯定で答えるときには、接頭辞だけで答えることができます。

Visszajössz? 君は戻ってきますか?

—Igen. / Vissza./ Igen, vissza. はい、戻ってきます。